

## 「電子メディアの啓発動画コンテスト」の選考結果について（報告）

### 1 実施の目的

児童生徒から電子メディアに関する啓発動画を募集し、電子メディアとの付き合い方やSNSでの適切なコミュニケーションの取り方について児童生徒に主体的に考えさせることにより、電子メディアと上手に付き合い、情報を正しく活用するなどの情報リテラシー（活用能力）を習得させる。

### 2 募集概要

#### (1) テーマ

「電子メディアとの正しい付き合い方」

#### (2) 提出作品

動画（30秒以内）

#### (3) 対象者

広島市立小・中・高等学校、広島中等教育学校、広島特別支援学校の児童生徒

#### (4) 募集期間

令和2年9月1日（火）～令和2年11月10日（火）

#### (5) 応募結果

小学生11点（7校）、中学生19点（8校）、高校生2点（1校） 計32点

#### 【参考：応募校からの主な意見】

- ・初めての試みで、教師の側には戸惑いもあったが、子どもたちは大変意欲的に、また楽しそうに取り組んでいた。
- ・電子メディアの問題について考えさせ、自らを振り返らせるよい機会となった。
- ・題材選びからストーリーづくり、撮影という一連の活動を試行錯誤しながら行うことが、電子メディアの問題を自分事として考えることにつながり、教育的に意味があった。
- ・生徒会役員が喜んで取り組んだ。全校生徒への啓発動画にしたいと意気込んでいる。
- ・放送部の生徒が、部活動の一環として作品作りを行ったが、大変熱心に取り組んでいた。
- ・動画を手段とする表現活動は、今後、教育活動の様々な場面で増えてくると感じている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による一斉休業のため、授業でじっくり取り組めないのが残念だった。

### 3 審査結果

#### (1) 審査基準等

次の①、②に適合した作品について③～⑤の各項目を5段階で評価し、審査員7名の合計点数が高い作品から順に「金賞」「銀賞」「銅賞」「入選」とする。また、それ以外の作品についても①、②に適合した作品はすべて優良賞とする。

- ① 「電子メディアとの正しい付き合い方」を啓発する内容か
- ② 「公序良俗や法令に反する」「第三者の権利（プライバシー権、著作権、肖像権等）を侵害する」「第三者を誹謗・中傷する」に当たらない内容か
- ③ 伝えたいメッセージが明確に表現されているか
- ④ 視聴者の動機付けになる（意識の変化や行動につながる）ような内容か
- ⑤ 視聴者を惹きつけるような内容や表現方法に工夫が施されているか

## (2) 入選作品

### ○小学生の部 5点(金賞1点、銀賞1点、銅賞1点及び入選2点)

表彰区分	学校名	氏名・グループ名	学年	タイトル
金賞	毘沙門台小学校	毘沙門台トライクラブ	6年	正しく使おうインターネット～変わるの自分と未来～
銀賞	鈴張小学校	片桐一修とその家族	6年	あなたの投稿は狙われている!?
銅賞	毘沙門台小学校	毘沙門台小学校 3年2組	3年	大丈夫じゃない!
入選	湯来南小学校	湯来南小6年 5人組	6年	ぼくたちわたしたちの考える正しい付き合い方
入選	可部小学校	泉賀 亮佑	6年	インターネット詐欺について

### ○中学生の部 5点(金賞1点、銀賞1点、銅賞1点及び入選2点)

表彰区分	学校名	氏名・グループ名	学年	タイトル
金賞	広島中等教育学校	生徒		守ろう、らいふ
銀賞	牛田中学校	牛田中学校PC放送部「SNS大好きガールズ」	1年	DMを送っただけなのに
銅賞	広島中等教育学校	片岡 万優子	3年	スマホと時間
入選	牛田中学校	牛田中学校PC放送部「迷惑ダンサーズ」	1年	深夜メールはdanceの始まり
入選	三入中学校	三入中学校生徒会	2,3年	～電子メディアは正しく使おう～

### ○高校生の部 2点(金・銀・銅賞該当なし、入選2点)

表彰区分	学校名	氏名・グループ名	学年	タイトル
入選	広島中等教育学校	生徒	4年	支配されないで
入選	広島中等教育学校	合田 真心	4年	相手の気持ちを考えて

※なお、入選作品以外の20点については、いずれも審査基準①、②に適合していたため、すべて優良賞とした。

## (3) 審査委員からの主な意見

- 小学生でも内容や表現方法を工夫していて感心した。子どもらしい手作り感があって、ほほえましい作品も多かった。
- 中学生の作品は、30秒という短い時間の中でも起承転結を意識し、伝えたいメッセージが明確に表現されているものが多かった。
- 高校生は、募集時期の関係で応募が少なく、残念ながら金・銀・銅賞の該当作品はなかったが、入選の2作品はいずれもメッセージ性があった。今後は募集時期等を考慮したい。
- 動画制作には、校種や学年を問わずチャレンジできることがわかった。また、動画という表現方法は、今どきの子どもたちに合っている。
- 親子や友達同士で取り組むのは、啓発の視点から大いに意味がある。
- 大人の手が加わった作品とそうでないものとは技術のレベルが違う。次回からは、審査の配点を工夫した方が良くもしい。

[参考：審査委員]

原本 高男	広島市PTA協議会会長	山本 敏之	伴小学校長(小学校長会)
開地 義明	広島市電子メディア協議会会長	長谷 富美	教育委員会青少年育成部長
横山 尚司	基町高等学校長(高等学校長会)	西本 哲也	教育委員会青少年育成部育成課長
笹田 清浩	砂谷中学校長(中学校長会)		

## 4 入選作品の活用

電子メディアと子どもたちとの健全な関係づくりの推進に向け、次のように活用する。

### (1) 意識啓発のための作品公開

- オンラインでの公開(広島市公式YouTubeチャンネル、Facebookなど)
- 広島市施設での放映(各区役所ロビーのデジタルサイネージ、青少年センターロビーのモニター等)

### (2) 学校の情報モラル教育や保護者研修会等での教材や資料

- 教育委員会LANのグループウェアへアップ、PTA協議会等への情報提供

### 電子メディアの啓発動画コンテスト 作品視聴方法

○ 広島市公式 YouTube チャンネルの再生リストから入選作品の視聴が可能

再生リスト「教育」カテゴリーの「電子メディアの啓発動画コンテスト」から視聴したい動画を選択

①「再生リスト」をクリック

②「すべての再生リスト」をクリックし、リストの中から「教育」のカテゴリーを選択

③「再生リストの全体を見る」をクリック

④リストの中から再生したい動画をクリック